



ARCHITECTURE REVIEW



建築見て歩記 その72

山梨県にある「清春芸術村」…そこには、様々な建築家の作品が建っていますが、この「光の美術館」が一番新しい建築です。安藤忠雄の設計で2011年に完成しました。建物の一角を斜めに切り取り、そこから続く屋根のトップライトからの採光で作品を鑑賞します。時間とともに光の入りが変わって行きますが、照明は無く、日没と共に閉館となります。

CURRENTLY WORKS



調剤薬局のPCR検査ブース 狭小スペースの活用

コロナ禍の昨今、調剤薬局でもPCR検査が出来るよう国も動いています。ここでは待合空間の一角に、既にある様々な設備を移設せず、なんとかスペースを取れないか、というご相談から始まって、レイアウトを試行錯誤しました。大変狭いスペースではありますが、動線を工夫しながら別注の対面テーブルを設置することで、機能的な解決を導き出しました。

PRIVATE TOPICS



岡本の「日々雑感」

ベランダに植物を植えました。早起きになるかとも期待して…。思った通り朝の空気は格別で、水をやりながら新しく出てくる若い葉を眺める心地よい時間が持てます。たっぷり水をやると目に見えて成長がわかり水が植物の命に直結している事を感じます。植えたのは、ブルーベリーやさくらんぼ…次回のニュースで実が生ったと報告ができるでしょうか。

EDITORIAL NOTE

7月2日頃、夏至から11日目を「半夏生（はんげしょう）」と言い、この時までに田植えを済ませます。「半夏」は「烏柄杓（からすびしゃく）」とも言い、毒草を示していて、その悪影響の前に植えるよう伝わっている言葉です。またこの時期は種蒔きも避け、井戸にも蓋をして、害毒から守っていました。

編集担当：太田・藤原、監修：岡島